

第二回

美郷町所蔵品展

報本反始

ほうほんはんし

10月25日(土)～11月30日(日)

■開館時間 9:00～19:00(入館は18:30まで)
■休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
■観覧料 無料

主催：美郷町教育委員会 主管：美郷町学友館

「報本反始」

平成16年、秋田県先の陣を切って合併し誕生した我が美郷町も10月31日で満10年を迎え、11月1日の「町の日」より11年目に入る。

この10年の歩みは平坦なものではなく町民の皆様と二人三脚で葛藤や傷みを乗り越えてきたものだ。

2007年の世界金融危機、2011年の東日本大震災、絶望的な危機の中でも、人類は歩いてゆく。文化を生み出し、歴史を刻みながら…

「報本反始」とは、根本に立ち返り、天地や先祖の恩に感謝することを意味し、出典は「四書五経」の一つ「礼記」にある。美郷町では、岩屋順太郎家塾「立志齋」熊谷松陰家塾「交文舎」江畑家私塾「酔経学舎」などで多くの方が「四書五経」を学んだ。志を持ち、明日を夢見て学んだ時代だ。貧しくとも真摯に研鑽を積む者には、素封家を始め多くのものが支援した。

合併10周年の今年、秋田県で第29回国民文化祭・あきた2014が行われ、「水の郷」美郷町では「アクアJAZZフェスティバル in M I S A T O」と「水輪廻Ⅱ 千葉克介写真展」を開催し、多くの方から音楽と写真を楽しんでいただいた。「国文祭」は「文化の国体」と言われるが、熱気あふれる国体ほどの派手な印象はない。

現代、「文化」という言葉の印象は、人によって悠長で穏やかなものを思い浮かべるかもしれない。しかし、一面においては文化は決して穏やかなものではなく自然や自分、為政者や社会との戦いの歴史でもあると言えるのではないだろうか。表現者はより高いものを求め、足掻き、苦しみながら作品を生み出していく。音楽であれ写真であれ、人を感動へと導くのは表現者と作品にふれた者の共感ではないかと思う。圧倒的なエネルギーが籠められた作品は多くのものを魅了する。例え表面に穏やかさを装っていたとしても…

今回の展示では美郷町が所蔵する芸術作品、歴史資料をご覧ください。作者や、伝え守ってきたものに思いを馳せながら美郷町の次の10年を考えていただきたい。

一人でも多くの方が文化や歴史を創る側を目指していただければ幸いです。

平成26年10月25日
美郷町学友館

ほうほんはんし
※「報本反始」
(四書五経の1「礼記」)

本は、天地。始は、祖先。根本に立ち返って、その恵みに報いる。天地や祖先の恩に感謝すること。
(「四字熟語」博覧辞典、真藤建志郎/著、日本実業出版/発)

「阿弥陀浄土図」／鈴木空如

本名：鈴木久治

明治6年仙北郡長信田村（現大仙市太田町）に生まれる。鈴木家は代々素封家であり、空如は幼いころから利発で絵を描くことが好きだったようだ。

明治31年9月、念願の東京美術学校日本画選科に入学。山名貫義、大西西崖、下村観山、寺崎広業らに学んでいる。更なる研鑽を積むため、明治35年卒業と同時に研究科に進学。明治37年研究科修了。

卒業後空如は、競い合い優劣をつける展覧会には出品しておらず、生涯仏画製作の道を進んだ。

この「阿弥陀浄土図」は坂本東嶽に贈られた2枚の内の1枚であり、明治39年「秋田伝神画會美術展覧会」に出陳されたもの。

法隆寺金堂壁画第六号壁の本尊と両脇侍をもとに描かれたものだが、現状模写ではなく、彩色豊かで穏やかな表情の仏が描かれている。



かどで
「首途」／橋小夢

本名：加藤 巖

明治25年秋田市生まれ。

秋田魁新報の発行人を務めた加藤則幹の長男。

16歳で上京。洋画家黒田清輝、日本画家川端玉章に師事した。大正～昭和にかけて挿絵画家として活躍した。

美郷町六郷の秋田諏訪宮に縁があり、展示作品は町内の伝世品。

「潘南村詩」／犬養木堂

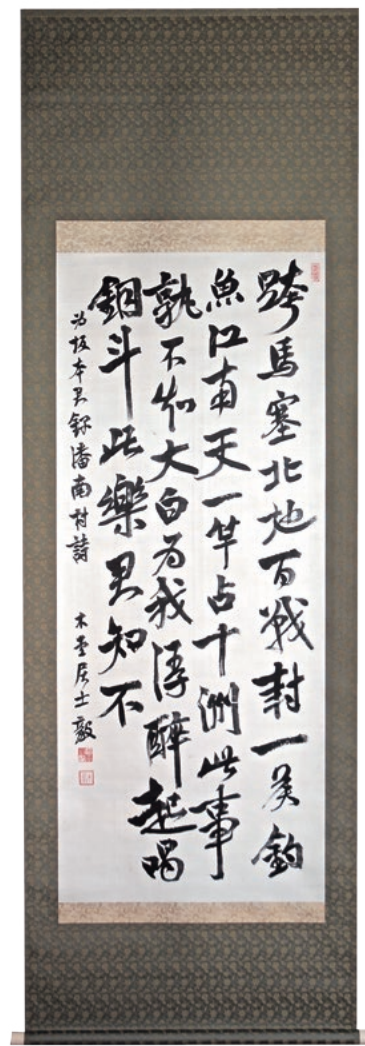
本名：犬養毅

安政2年（1855）備中国賀陽郡（現岡山県岡山市）生まれ。

新聞記者を経て政治家として活躍。第29代内閣総理大臣。「書」にも長け、多くの作品が伝世している。

明治16年には秋田日報（現秋田魁新報）主筆を務めている。

本書は慶応義塾で親交を深め生涯にわたり政友であった坂本東嶽に宛てられたもの。



「本堂城廻村絵図」
《明和4(1767)年》

本絵図は、本堂氏の居城跡とその城下一帯を描いたもの。

代々地域の方々が守り伝えてきた資料を町にご寄贈いただいている。

町指定文化財であったが平成21年3月13日、「本堂城廻村絵図」慶長19（1614）年の絵図と共に秋田県指定有形文化財（歴史資料）となっている。

慶長の絵図は本堂氏転封後のものであり、内堀や外堀のある城跡や短冊状の家並みなど中世城下町の町割りが見て取れる。それから153年後に描かれた明和の絵図では、屋敷の境界も明確に記され、城跡内部が耕地となっており、時代の変遷を知ることができる貴重な史料である。

絵図に描かれている本堂城跡も平城跡としては遺存状態が良いため秋田県指定史跡となっている。

